

第一部

「デジタル・ダダ」あるいは「ノイズ・オブジェクト」

—3Dプリンタによるアート作品制作の試み—

戦後のコンピュータの発展が人間の「頭脳」を拡張し、インターネットの登場が「神経系」を拡張したとも言われています。それらは、社会やアートにも大きな影響を及ぼしました。そして今日、「第二の産業革命」とも呼ばれる、デジタル・データを実際の「物質」として個人が作り出すことを可能とする、3Dプリンタをはじめとする様々なデジタル工作機械の登場したことで、私たち、この社会、そしてまたアートも、再び大きな変革の時を迎えようとしています。

今回の企画、「デジタル・ダダ」あるいは「ノイズ・オブジェクト」—3Dプリンタによるアート作品制作の試み—は、現代におけるア

ートの新しい在り方を、講演、プレゼンテーション、3Dデータの制作体験を通じて明らかにしようとするものです。

このイベントでは、3Dスキャナを使って身近な事物のデータを読み取り、ダダイズムやノイズ・ミュージックのように、それらを組み合わせることによって現実世界を再構成するアート作品が主要なものとなるのでは、という可能性を探ります。

ビジネスや日常生活に回収されてしまいつつある3Dプリンタなどへの、アートの視点からの斬新なアプローチは、新しい時代の物づくりの意味を考え直す機会を与えてくれるのではないのでしょうか。

■10月25日(土)

□10:30~12:00

□基調講演:

「デジタル・オブジェクトに
おける意味とノイズ」

久保田晃弘



久保田晃弘 (くぼた あきひろ)

1960年生まれ。多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授。JAXA宇宙科学研究所学際科学研究系客員教授。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了/工学博士。衛星芸術(ARTSAT.JP)、バイオアート(BIOART.JP)、デジタル・ファブリケーション(fablabshibuya.org)、自作楽器によるサウンド・パフォーマンス(hemokosa.com)など、さまざまな領域を横断・結合するハイブリッドな創作の世界を開拓中。主な著書に「消えゆくコンピュータ」(岩波書店、1999)、「ポスト・テクノ(ロジー)ミュージック」(共著、大村書店、2001)、「FORM+CODE—デザイン/アート/建築における、かたちとコード」(BNN新社、2011)、「ビジュアル・コンプレキシティー—情報パターンのマッピング」(監訳、BNN新社、2012)、「ジェネラティブ・アート—Processingによる実践ガイド」(BNN新社、監訳、2012)、「Handmade Electronic Music.FN/手作り電子回路から生まれる音と音楽」(オライリー・ジャパン、監訳、2013)などがある。

<https://www.facebook.com/hemokosa> <https://www.facebook.com/artsat>

□13:00~14:00

□デモンストレーション:

「iPadを使った3Dアートの
理念と制作方法」

久保田晃弘、谷口暁彦、渡邊朋也、時里亮



思い出横丁情報科学芸術アカデミー (おもいでよこちょうじょうほうかがくけいじゅつあかてみー)

新宿・思い出横丁で発見されたメディアアートにまつわるエフェメラルでアンフォルメルなコミュニティ。夜になると立ち現れ、未明には消え去ってしまう。近年は、NTT ICCの「インターネット・リアリティ研究会」にも参加、その活動をシラフの領域にまで拡張している。

□14:10~16:30

□制作体験(一日目)

iPadと3Dスキャナを用いた、3Dアートの制作を体験していただけます。

指導:谷口暁彦、渡邊朋也、時里亮

※事前申し込み制



谷口暁彦(たにくち あきひろ)

1983年生まれ。インスタレーション、パフォーマンス、ネットアート、彫刻、映像作品などを制作する。主な展覧会に「emergencies! 004」(2007年 NTT ICC)、「Space of Imperception」(2008年 radiator-festival イギリス)、「redundant web」(2010年 インターネット上)「[インターネット アート これから]—ポスト・インターネットのリアリティ」(2012年 NTT ICC)、「思い過ぎものたち」(2013年 飯田橋文明)、「マテリアライジング展 / 情報と物質とそのあいだ」(2013年 東京藝術大学陳列館)などがある。

■10月26日(日)

□13:00~15:00

□制作体験(二日目)

指導:谷口暁彦、渡邊朋也

※事前申し込み制



渡邊朋也(わたなべ ともや)

1984年生まれ。コンピューターやテレビジョン、インターネットといった、メディア技術をベースに、パフォーマンス、インスタレーション、映像作品、ダジャレなどを制作する。IDPW正会員、山口県立大学非常勤講師、インターネットリアリティ研究会会員。最近参加した展覧会に「transmediale 2014」(2014年/ベルリン)、「光るグラフィック展」(2014年/東京)、「Affekte」(2014年/エアランゲン)、「マテリアライジング展」(2014年/東京)など。

□15:10~16:30

□講評会/質疑応答

講評:谷口暁彦、渡邊朋也



時里亮(ときさと みつる)

1990年兵庫県生まれ。2010年岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー、2012年多摩美術大学卒業。カメラや画面に関する実験と観察を行ない、それを元に作品を制作している。主な展覧会に、「エマーゲンシーズ1022 視点ユニット」(NTT ICC、2014)「照準と流出」(2012 土居下太意との二人展)、「Extended Senses 3rd」(ソウル、2012)、「いま、映像でしゃべること?」(2013)など。

□制作体験をご希望の方は、町田市イベントダイヤル(042-724-5656)から、もしくは町田市役所HPの下記申し込みページからお申し込みください。(10月1日~10日まで)。

<https://www.city.machida.tokyo.jp/cgi-bin/formmail/formmail.cgi?d=event05>

□高校生以上で、10月25日(土)、26日(日)午後、両日とも参加できる方が対象です。

□定員10名 ※定員を超えた場合には、抽選となります。

□結果のお知らせ:10月15日に、メールあるいはfax、電話にてお知らせします。

□iPadを使用した制作体験です。お持ちでない方は、お申し込みの際、その旨をお知らせ下さい。

□制作したデータをお持ち帰りになりたい方は、SD/USBメモリをご用意下さい(2GB程度)。

□基調講演、制作体験の様子、講評会は、どなたでもご自由にご覧いただけます。



町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 Tel.042-726-2771 / 0860 小田急線/JR横浜線町田駅より徒歩15分